

2 県内の食品リサイクル事例

① 店舗の食品リサイクル

地域密着型食品残さ活用と食品ロス削減への取組み

1 概要	
(1) 実施場所	伊勢丹浦和店
(2) 開始年月日	2012年7月
(3) 関係者名・数	
・ 食品廃棄物等排出者	伊勢丹浦和店
・ 再生利用等実施者	クリーンシステム(株)
・ 利用者	農業
(4) 食品廃棄物等の種類・量	肉、野菜
(5) リサイクル品の種類・量	堆肥化
(6) 事業費	非開示
・ 設備設置等初期費用	非開示
・ 維持管理費	非開示
2 取組開始までの背景、構築までの過程	
<p>○ 三越伊勢丹グループでは、低炭素社会実現に向け、4R (Refuse、Reduce、Reuse、Recycle) を推進しています。</p> <p>食品のリサイクルについては、開店当初より、堆肥化、飼料化、燃料化を進めています。</p> <p>○ 伊勢丹浦和店においては、残さの種類ごとに委託先を選定し、活用しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 肉、野菜 (委託先…クリーンシステム(株)) 堆肥化で農家、田畑へ ※添付ファイル「処理フロー」参照 ・ 魚あら (委託先…三幾飼料工業(株)) 飼料化 (魚粉、魚油) で養魚飼料、畜産飼料、ペットフード等へ ・ 油 (委託先…(株)吉川油脂) 飼料化、燃料化で固形燃料へ 	



彩の国資源循環工場

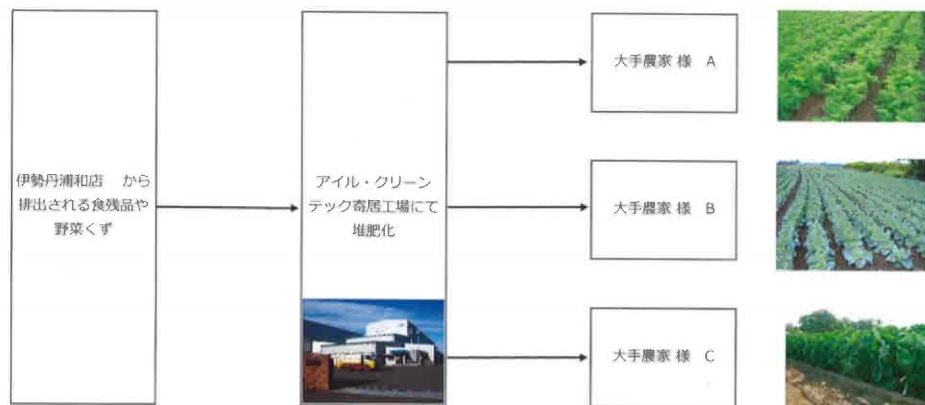


不揃い野菜特価市の様子

3 取組の特徴、成果

- 埼玉県内でリサイクルを確立

伊勢丹浦和店から排出される野菜くずを、埼玉県内で堆肥化、埼玉県産の農家で活用されています。



4 リサイクル品利用者の声

- 非常に使いやすい堆肥。野菜嫌いの子どものもおいしいと野菜を食べてくれる。
- 堆肥は、人間が食べ残した食残品や野菜くずを原料としているので安心。収穫した野菜の糖度も上がっており。おいしい野菜づくりに必要な堆肥である。
- 糶殻を使用して堆肥にしているので土が柔らかくなり、水はけが良い土になっており野菜の生育が良い。

5 今後の計画、課題

- 食品廃棄物含めた廃棄物リサイクル率は79.7と%高い水準を維持しています。一方で、食品ロス（食べられる物を廃棄すること）については、発注精度向上、適正な在庫計画や受注販売をさらに進めていきたいと考えています。
- その一環として、2021年8月より、「不揃い野菜特価市」を開催し、食品ロス削減へ貢献するとともに、お客さまへ社会課題を啓発しています。見た目に捉われず、味やコストパフォーマンスの良さからお客さまからは大変好評をいただいています。

お問合せ先

名称： (株)三越伊勢丹 伊勢丹浦和店

住所： さいたま市浦和区高砂1-15-1

電話： 048-825-8701

<https://www.mistore.jp/store/urawa.html>

② 店舗の食品リサイクル

大宮店食品リサイクル率向上へ「生ごみ肥料化」

1 概要	
(1) 実施場所	(株)高島屋大宮店
(2) 開始年月日	2019年6月1日
(3) 関係者名・数	
・ 食品廃棄物等排出者	(株)高島屋大宮店
・ 再生利用等実施者	株式会社アイル・クリーンテック
・ 利用者	JA
(4) 食品廃棄物等の種類・量	【種類】 食品残渣（調理くず・食べ残し） 【量】 6,000kg（月間）
(5) リサイクル品の種類・量	【種類】 堆肥 【量】 不明
(6) 事業費	専用容器「カートペール」2台 200,000円
・ 設備設置等初期費用	
・ 維持管理費	240,000円（月額：税別）
2 取組開始までの背景、構築までの過程	
大宮店食品リサイクル率向上へ「生ごみ肥料化」の取組を画策	
【背景・目的】	
○ 持続可能な社会実現に向けた、高島屋グループ「SDGs（持続可能な開発目標）」の取り組むべき領域の1つとして「食品ロス」は必須であり企業が本業を通じて社会課題に取り組むことを目的としています。大宮店においてもあらゆる資源や環境に配慮した事業活動を通じて気候変動・環境汚染防止対策に取り組めます。	
【大宮店を取り巻く環境】	
○ 廃棄物の処理及び清掃に関する法律、同法律施行令、同法律施行規則及びその他関係法令の変化に伴い厳格化が目立っており、大宮店では社会的課題であるコンプライアンス順守の観点からも、業務の効率化をはじめとし抜本的な見直しを進める中、廃棄物排出業務について2019年6月から新たな体制、内容で業務を再構築する判断に至る。	
【新業者の選定や契約締結まで】	
○ 新業者の選定については、さいたま市担当者へ相談の上、「生ごみの堆肥化」に取り組んでいる地場業者を選出し、交渉を開始する。地元野菜へ還元等、地域との共生や話題性による利害が一致、現地確認後、契約を締結した。	



倉庫内カートペール



倉庫内分別（可燃ごみ）

3 取組の特徴、成果

【具体的活動開始】

- 全館通達として、大宮店食品リサイクル率向上への取り組みとして、食品リサイクルの考え方を発信（1階外倉庫への投棄ルールや正しい分別知識の確認）。

【通達から定着へ】

- 総務担当者が開始一週間前より毎日、生ごみ計量器前で現地の分別指導を展開する一方で食料品売場朝礼やテナント個別指導を通じ、分別教育を実施しながら両面から館内定着を図る。

【成果】

- 大宮店から排出される生ごみの100%リサイクル（堆肥化）を実現。

4 リサイクル品利用者の声

- 株式会社アイル・クリーンテックの販売先のため不明。

5 今後の計画、課題

- 定期的に現地の分別指導や分別教育を実施しながら徹底を図り、継続的な活動とし、館内ルールとして定着させていく。

お問い合わせ先

名称：(株)高島屋大宮店

住所：さいたま市大宮区大門町1-32

電話：048-643-1111

e-mail：tanaka-kentaro@ad.takashimaya.co.jp

URL：http://www.takashimaya.co.jp

③ 学校食品等の食品リサイクル
生ごみ再資源化促進事業

1 概要	
(1) 実施場所	熊谷市小島319番地1
(2) 開始年月日	平成12年10月20日
(3) 関係者名・数	
・ 食品廃棄物等排出者	熊谷学校給食センター 一般家庭モニター
・ 再生利用等実施者	NPO法人 くまがや有機物循環センター (堆肥化センター)
・ 利用者	水稻栽培農家、野菜栽培農家
(4) 食品廃棄物等の種類・量	給食残さ 73t/年 生ごみ 27t/年
(5) リサイクル品の種類・量	堆肥 10t/年
(6) 事業費	—
・ 設備設置等初期費用	
・ 維持管理費	委託料 210万円 (人件費、消耗品費、自動車燃料費、 機械修繕費、光熱水費)
2 取組開始までの背景、構築までの過程	
<p>○ 平成9～11年度まで彩の国有機100倍運動推進事業に取り組んだ。その事業の流れを引き継ぎ、平成12～15年度まで生ごみ再資源化試験研究業務を行った。</p> <p>○ 現在の生ごみ再資源化業務は平成15年度から継続している。</p>	



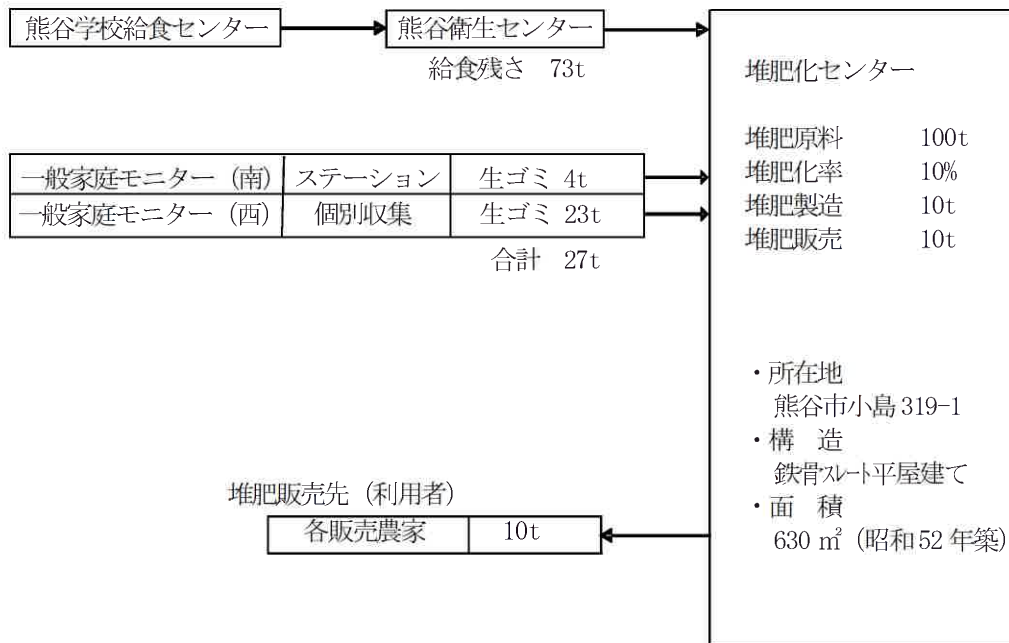
堆肥センター



堆肥散布中

3 取組の特徴、成果

- 熊谷学校給食センターと一般家庭から排出される生ごみ、家畜糞尿などを原料に有機堆肥の生産技術の確立に向けた試験研究を行った。
- 製造堆肥については、特に問題なく、有機堆肥として利用可能なものができた。



4 今後の計画、課題

- 全市を対象とするには、直営・委託を問わず、継続的な収集ができる体制づくりを確立する必要がある。また、製造された有機堆肥の量に見合う継続的利用農家の確保も必要である。
- 家庭からの生ごみについては分別排出する際の排出方法の徹底、啓発を図る必要がある。

お問合せ先

名称：熊谷市環境部環境推進課廃棄物対策係
 住所：熊谷市江南中央一丁目1番地
 電話：048-536-1549 (直通)
 e-mail：kankyosuishin@city.kumagaya.lg.jp

④ 学校給食等の食品リサイクル

学校給食残さが“人気堆肥”に変身！

1 概要	
(1) 実施場所	行田市大字中江袋261-2
(2) 開始年月日	平成11年 4月 1日
(3) 関係者名・数	
・ 食品廃棄物等排出者	熊谷市（旧妻沼町）5校 妻沼東中学校、長井小学校、妻沼南小学校、 妻沼小学校、秦小学校
・ 再生利用等実施者	熊谷市
・ 利用者	地域内農家 30名
(4) 食品廃棄物等の種類・量	学校給食残さ 15,360kg/年
(5) リサイクル品の種類・量	堆肥 9,560kg/年
(6) 事業費	
・ 設備設置等初期費用	約6,000万円
・ 維持管理費	約9,300万円
2 取組開始までの背景、構築までの過程	
<p>○ 生活様式の変化により水洗式が普及し、それに伴って浄化槽汚泥が増加してきたが、処理施設が老朽化して機能が著しく低下していた。</p> <p>○ 同じ悩みを抱えていた妻沼町（現・熊谷市）と南河原村（現・行田市）が共同で汚泥処理施設の更新を図ることになり、地域住民の理解を得て平成6年9月に妻沼南河原環境施設組合を設立し、平成11年3月に汚泥処理施設が完成した。</p> <p>○ 現在は、運営は熊谷市の運営となっている。運営を開始した当時、堆肥製造技術の習得などに費やす時間も限られ、製造された堆肥が生産者に利用されるようになるの不安があったが、今では品質も安定した商品である。</p>	



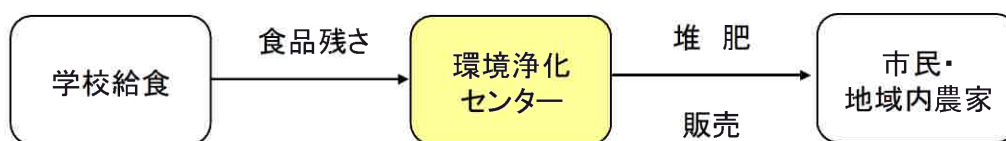
施設の外観



製造された堆肥

3 取組の特徴、成果

- 以前の施設では発生した乾燥汚泥のほとんどを焼却処分していたが、現在の施設は従来の高負荷脱窒素処理方式に学校給食用の厨芥ごみを加えた再生処理方式を導入しており、高度な技術により固形肥料化（再生有機肥料化）を実現している。
これにより、汚泥を完全に農地へ還元し、自然にリサイクルさせる汚泥再生を可能としている。
- 1週間に学校給食の厨芥ごみ約 455 kgを必要とするため、搬入がない祝日や定量増の日（冷蔵庫で保管）の調整を適切に行い、できるかぎり厨芥ごみの無駄が出ないようにしている。
- 最初の製品は平成11年5月に製造された。県の農業試験場で成分分析及び安全性の確認を行い、県や国の特定肥料の許可を受けた上、同年10月から地域の生産者に直接販売している。堆肥の利用量は1人最大50袋（10kg/袋）とし、利用者が引き取りに来るシステムとなっているが、好評な商品となっている。
- なお、学校給食の厨芥ごみを利用しているため、夏休み等学校が長期間休みとなる期間は装置を動かしていない。



4 今後の計画、課題

- 当面は現状維持で事業を継続していく予定である。
- 長期間の休み明け（夏休み、冬休み、春休み）すぐの学校給食の厨芥ごみの確保が難しい。また、施設の一部が老朽化していることなどから堆肥製造量が減少している。



お問い合わせ先

名称：妻沼南河原環境浄化センター

住所：行田市大字中江袋261-1

電話：048-557-0241

⑤ 食品製造・加工業の食品リサイクル

食品残さのリサイクルで肥育豚経営と堆肥づくり

1 概要	
(1) 実施場所	所沢市大字城846-5番地
(2) 開始年月日	平成6年1月2日
(3) 関係者名・数	
・ 食品廃棄物等排出者	(株)武蔵野、他12業者
・ 再生利用等実施者	(株)伊藤畜産
・ 利用者	J Aいるま野管内農家(約300戸)
(4) 食品廃棄物等の種類・量	コンビニ用弁当製造時の残さ 2.0~2.5t/日 麺類他 1.0~1.5t/日
(5) リサイクル品の種類・量	飼料(肥育豚) 2.5t/日 堆肥(露地野菜) 0.5t/日
(6) 事業費 ・ 設備設置等初期費用	生ゴミ処理機 2台 2,000万円 収集運搬機械 6台 5,000万円 堆肥切返し装置2基 4,500万円
・ 維持管理費	機器メンテナンス 500万円/年 光熱水費 600万円/年
2 取組開始までの背景、構築までの過程	
<p>○ 伊藤氏は、昭和47年から食品製造業者((株)武蔵野)から排出される残飯を餌とした養豚経営を開始した。</p> <p>○ 平成2年頃から近隣の養豚農家が次々と廃業し、餌としての需要があった食品製造業者の食品残さが余りはじめてきたことから、飼養規模を拡大することとした。 ふん尿はそれまで堆肥化して自家畑に投入してきたが、飼養規模拡大に伴って堆肥化する量も増えたため近隣農家へ販売することとした。</p> <p>○ (株)武蔵野を始め各食品製造業者においては、食品製造量の増加に伴って排出される食品残さが増加したことや、ごみや環境問題への社会的関心が高まってきたことから、食品残さを食品産業廃棄物として収集処理できる業者との連携が急務となっていた。</p> <p>○ このような中、(株)伊藤畜産は、平成7年に産業廃棄物処理業、平成10年には同収集運搬業の許可を取得して、本格的に食品製造業者からの食品残さ等の収集を開始した。</p>	



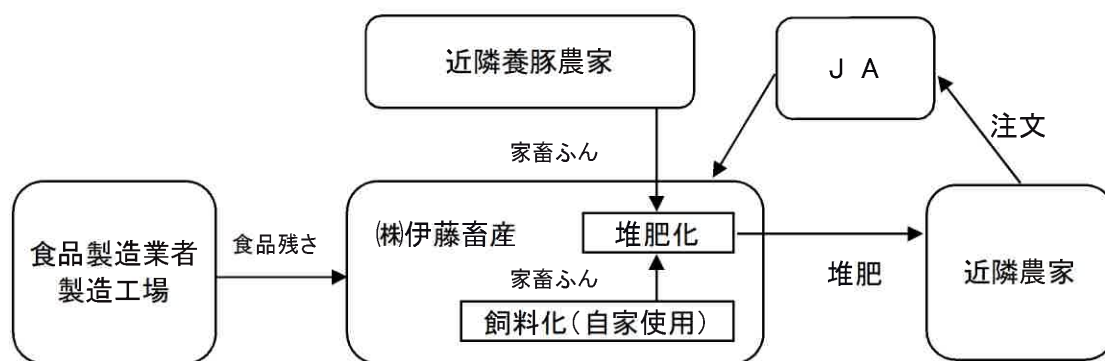
第二工場(堆肥切り返し工場)



おがくず豚舎

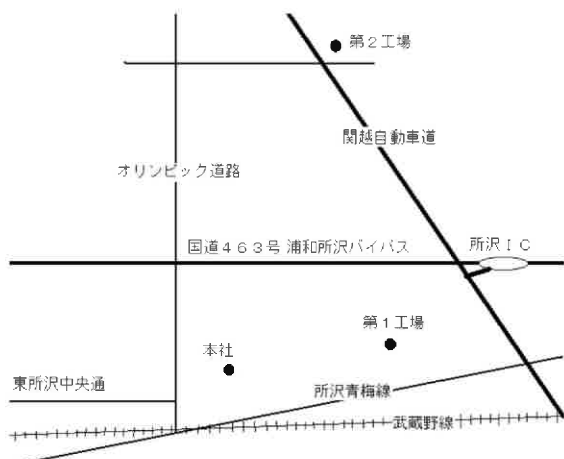
3 取組の特徴、成果

- 食品残さや麺類の収集量は、1日あたり約3～4 tで主に豚の飼料となるが、余剰分(約1 t/日)は堆肥の原料として利用する。
- 堆肥の主な原料は、ふん尿、食品残さ、おがくず、米ぬかで、約8か月かけて完熟化している。
- 平成8年から、JAいるま野(当時はJA所沢市)の協力を得て販路を拡大し、現在は地元所沢市の他、坂戸市、鶴ヶ島市、毛呂山町などに利用者がおり、希望に応じて2 t車、4 t車で配達も行っている。
- 周辺住民から臭気等に関して苦情が寄せられた場合は、施設の改良や技術開発などにより、早急に対応するなど、周辺住民の理解醸成にも積極的である。
- 近隣の養豚農家で生じた余剰のふん尿も引き取り、堆肥の原料として活用している。
- 堆肥利用農家からは、作物の収量品質の向上や、根菜類の収穫時に土が作物に残りにくい等、好評を博しており、利用件数も増加傾向にある。



4 今後の計画、課題

- 平成16年11月から「家畜排せつ物法」の完全施行に伴い、今後とも地域の養豚農家の余剰ふん尿の堆肥化を行い、地域の畜産業の維持・発展を図る。
- 今後とも処理技術についての工夫、研鑽を重ね、必要な場合は施設の改修も実施する。特に堆肥自体の消臭技術を完成させ、このような処理施設に付き物といわれる臭いの問題を抜本的に解決したい。



お問い合わせ先
 名称：(株)伊藤畜産
 所在地：所沢市大字城846-5
 電話：04-2944-2671

⑥ 学校給食や店舗からの食品リサイクル

堆肥が人や地域をつなぎ“食べる”ことからエコライフ

1 概要	
(1) 実施場所	埼玉県本庄市新井800
(2) 開始年月日	平成19年3月25日
(3) 関係者名・数	
・ 食品廃棄物等排出者	本庄上里学校給食センター、食品加工業者、 ベルク・ベイシア・コンビニ店など
・ 再生利用等実施者	株式会社サニタリーセンター
・ 利用者	一般消費者・農業生産者・肥料メーカーなど
(4) 食品廃棄物等の種類・量	動植物性食品残さなど1,487 t/年
(5) リサイクル品の種類・量	堆肥生産量 297 t/年
(6) 事業費	2億2,000万円
・ 設備設置等初期費用	
・ 維持管理費	400万円/月
2 取組開始までの背景、構築までの過程	
<p>○ (株)サニタリーセンターでは、従来からの資源リサイクル業務に食品リサイクル業務を加えることとし、平成18年度に設備投資を経て、現在に至っている。</p> <p>○ 当初は、食品リサイクル堆肥について農業者等の理解が低かったことから、本庄市内の協力農業者等と連携を得て、効果の実証、研究などを概ね3年間実証し、本格的な利用が始まった。</p> <p>○ 同時に、市民らで構成されるNPO法人との相互理解・連携のもと、まち活性化の一端とする活動により弾みを得た。</p>	



縦型コンポスト



発酵施設



マニユアプレッターでの散布

3 取組の特徴、成果

- 平成22年2月から本庄上里学校給食センターと食品リサイクルの取り組みを始め、生産された堆肥を対象小中学校23学校ファーム等に配布している取り組みも13年間続いており、リサイクル活動が浸透してきた。
- 令和26年度補正「ものづくり・商業・サービス革新補助金」を利用したマニアスプレッターによる散布サービス（有料）用して頂き、利用者の作業軽減に貢献している。
- 堆肥利用者も定着して、安定的に堆肥利用が進んでいる。

4 リサイクル品利用者の声

- 食品サリイクル堆肥の内容が分かってきた。作物“葉色”が全然違う。
- 散布する量を間違えなければ、作物生育に有効だと思う。

5 今後の計画、課題

- マニアスプレッター散布作業は、少々“コツ”が必要なので、経験を積んだ従業員育成が必要。
- 農業生産法人。関係団体との連携を広げていく。

お問合せ先

名称：株式会社サニタリーセンター

住所：埼玉県本庄市新井800番地

電話：0495-24-8281

e-mail：uketuke@sanitary.co.jp

URL：<http://www.sanitary.co.jp>

⑦ 食品製造・加工業の食品リサイクル

堆肥づくりを通じ、循環型農業の実現を目指して

1 概要	
(1) 実施場所	春日部市大字赤沼704-2
(2) 開始年月日	昭和49年
(3) 関係者名・数	
・ 食品廃棄物等排出者	食品製造業者
・ 再生利用等実施者	(株)筒屋
・ 利用者	農家等
(4) 食品廃棄物等の種類・量	食品残さ 約80 t/年
(5) リサイクル品の種類・量	堆肥・肥料 (水田、畑) 約5 t/年 飼料資材 (養鶏場向け) 約5 t/年 飼料資材 (飼料工場向け) 約40 t/年
(6) 事業費 ・ 設備設置等初期費用	堆肥混合機 1台2,000万円 乾燥機 1台2,000万円
・ 維持管理費	約300万円/年



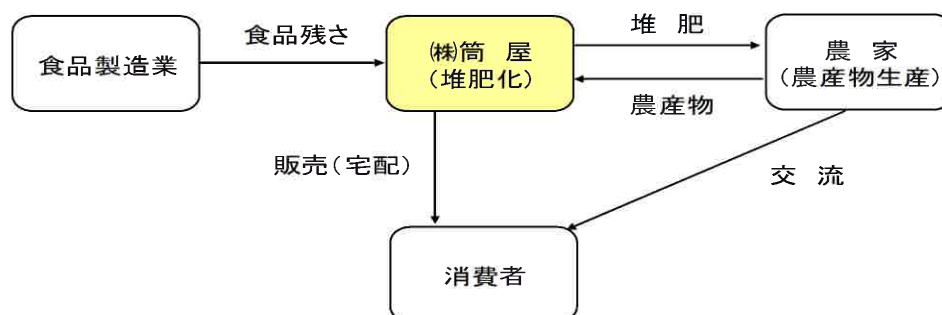
写真 左:工場内部の様子 右上:リサイクル製品 右下:小学生の農作業体験

2 取組開始までの背景、構築までの過程

- (株)筒屋では、以前から、化学肥料を中心とする農業生産から昔ながらの有機質資材を活用した循環型農業を見直し実践したいと考えていた。同じ頃、近隣の食品製造業者でも食品製造後の食品残さ（魚粕類）の再利用を検討していたため、筒屋ではこの会社と連携し、食品残さを使用した堆肥製造を開始した。
- 食品残さを乾燥させた堆肥と、これに微生物を投入した発酵堆肥を製造している。

3 取組の特徴、成果

- (株)筒屋では、堆肥や有機質肥料には有益な微生物やミネラルなどが含まれており、これを投入することで、食味が良く、病害虫に強い農産物を生産できると考えている。
- リサイクルされた堆肥・肥料は近隣農家に販売されている。化学肥料に比べて投入量が多いなど労力もかかるが、良質な農産物ができ、また人と環境に優しい循環型農業が可能であるため、農家からの関心も高い。
- また同社では、同社のリサイクル製品を利用する農家と連携し、堆肥等有機質資材を使用し農薬使用回数を削減して生産した農産物を、消費者に予約販売する取組も行っている。

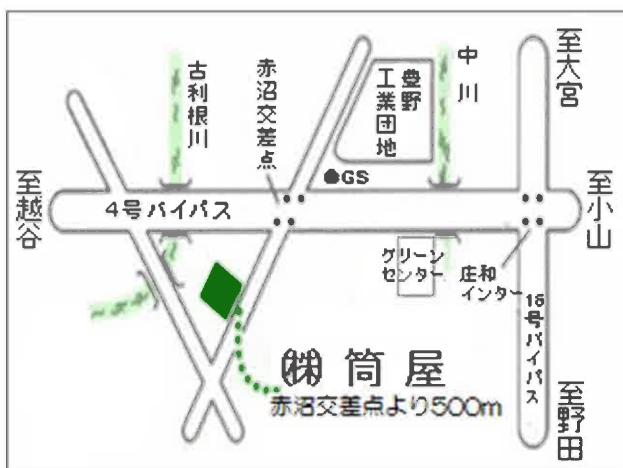


4 リサイクル品利用者の声

- この肥料や発酵堆肥を使用した生産者からは、化学肥料では得られないおいしさが出ると喜ばれている。そして、直売所では農産物の色や柔らかさ、日持ちの良さなどが特徴として人気がある。
- また、メロンやスイカ農家さんは糖度が高い、コクのあるものが出るといって使用しています。

4 今後の計画、課題

- 今後も活動の輪を広げ、地域として循環型農業を実現したい。
- 現在も地域の小学生を対象に農作業体験を支援している。
- 今までこの肥料を使って、古代米をつくり、その古代米を地域の商業者が加工し、市の特産品としていくつも認定されている。また、地域の人々とその稲わらを使って、神社のしめ縄奉納も定着している。
- これからも循環型農業の大切さや、農産物本来のおいしさを伝えていきたい。



お問い合わせ先

名称：(株)筒屋 たまごくらぶ

住所：春日部市大字赤沼704-2

電話：048-35-0534

e-mail：hiro@tutuya.com

http://www.tutuya.com

⑧ 家庭の生ごみ等のリサイクル

資源循環型社会をめざして家庭系生ごみを堆肥化

1 概要	
(1) 実施場所	狭山市内
(2) 開始年月日	平成14年4月
(3) 関係者名・数	
・ 食品廃棄物等排出者	生ごみリサイクル事業参加世帯 参加世帯数：974世帯（令和2年度）
・ 再生利用等実施者	太誠産業株式会社狭山支店
・ 利用者	全国の農家、畜産業者 （一次生成物の一部は狭山市民が利用）
(4) 食品廃棄物等の種類・量	家庭系生ごみ 130,510kg/年（令和2年度）
(5) リサイクル品の種類・量	一次生成物 約20,000kg/年（令和2年度）
(6) 事業費	専用バケツ補助金 167,500円（令和2年度）
・ 設備設置等初期費用	
・ 維持管理費	業務委託料 7,034,489円（令和2年度）
2 取組開始までの背景、構築までの過程	
<p>○ 狭山市では、約 170 世帯の市民グループと生ごみ処理機製造業者が、協同で約 2 年にわたり生ごみの堆肥化活動を行っていた。市民は各家庭において生ごみを専用バケツに保存し、それを業者が 2 週間に 1 回、ボランティアで回収して大型生ごみ処理機で堆肥化していた。</p> <p>○ しかし、業者のボランティアによる作業が困難となり、活動が継続不能となった平成 13 年 11 月、市民グループは「狭山生ごみ資源化をすすめる会」を発足し、市に家庭系生ごみリサイクル事業への協力を求める要望書を提出。</p> <p>○ これを受け、市では同会と堆肥化の手法や回収方法等の協議を重ね、12 月より市職員による週 1 回の堆肥化作業を開始。同時に狭山市方式による生ごみリサイクルのあり方の検討会を実施し、平成 14 年 4 月より市内 10 地区 250 世帯を対象とした毎週金曜日の週 1 回、生ごみの回収から堆肥化までの業務を民間業者へ委託する手法を取り入れた。その後、資源循環型社会であるリサイクル都市の実現を目指すため説明会等を実施し、参加世帯の拡大を図り市内全域を対象として 4 地区に分けて週 1 回の回収とした。令和 2 年度の当事業参加世帯数は 974 世帯となっている。</p>	



専用バケツで週一回排出。
分別状況はとても良好です。



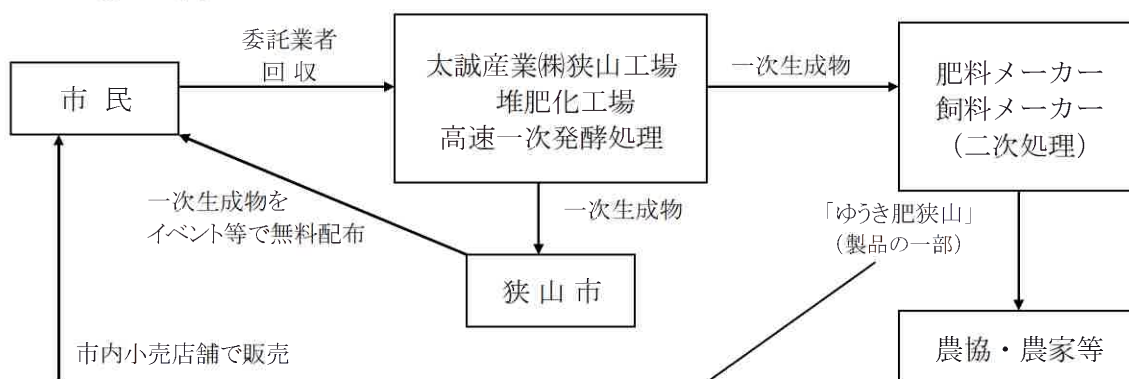
作業員が回収車の大型バケツに生ごみを移し替えます。



回収された生ごみは、大型生ごみ処理機で高速発酵処理します。

3 取組の特徴、成果

- 生ごみリサイクルの流れは、まず参加世帯が生ごみを専用バケツに入れ、週1回バケツのまま排出する。業者は各ステーションから生ごみを大型バケツに移し替えて回収し、市内工業団地内の民設民営堆肥化工場へ運搬。大型生ごみ処理機で高速発酵させてパウダー状の一次処理物を生成する。次にこれを篩にかけて異物を除去した後、肥料メーカー等で成分配合調整（二次処理）を行い、肥料として製品化し市場へ流通している。また、一部は飼料としての利用もされている。
- 本事業の特徴は、生ごみを専用バケツで保存する点である。家庭では他の燃やすごみと生ごみを別にして排出することにより、燃やすごみの量が減り、重いごみ袋を集積所へ持っていくことがなくなり、ごみ集積所ではカラス等に荒らされなくなり清潔になる、といったメリットがある。また、資源循環型社会の構築はもとより、燃やすごみの減量により環境負荷の軽減とごみ処理施設の延命化に大きな効果が得られることが期待されている。



4 リサイクル品利用者の声

- リサイクル品の「ゆうき肥狭山」は、定期的に購入している方もいらっしゃる。
- イベント時には、一次生成物の無料配布を実施しており、一次生成物は土と混ぜることで良い肥料となるため、すぐになくなってしまいう程人気が高い。

5 今後の計画、課題

- より多くの市民に本事業に参加していただくため、現在、一次生成物はイベント等での無料配布や、定期的に一部の自治会などに提供して利用されている。今後もそのような機会をとらえてPRしていくことが必要である。
- その一方で、収集処理にかかる業務委託料や専用容器の購入費補助などの事業費をいかにして抑えるかが今後の課題である。
- 新規事業参加者の減少が続く一方で、長年の継続排出者もいるため事業継続の妥当性の判断が難しい。生ごみは「燃やすごみ」の中に含まれ水分を多量に含むため、資源化できればごみの削減には非常に有効な手段であるが、現状では全世帯に対し参加世帯は僅かである。

お問合せ先

名称：狭山市 環境経済部 資源循環推進課

住所：狭山市入間川1-23-5

電話：04-2953-1111（内線2541・2542）

e-mail：sigenjun@city.sayama.saitama.jp

URL：https://www.city.sayama.saitama.jp/

⑨ 家庭の生ごみ等のリサイクル

生ごみは資源！生ごみバケツと花苗を交換

1 概要	
(1) 実施場所	戸田市美女木北1丁目8番地の1
(2) 開始年月日	平成22年5月
(3) 関係者名・数	
・ 食品廃棄物排出者	市内の一般家庭
・ 再生利用等実施者	戸田市／NPO戸田EMピープルネット 蕨戸田衛生センター組合フラワーセンター
・ 利用者	市内の一般家庭
(4) 食品廃棄物の種類・量	一般家庭から出る生ごみ、年間約73t程度
(5) リサイクル品の種類・量	生ごみ堆肥、年間約20t程度
(6) 事業費	26,800千円（総工費）
・ 設備設置等初期費用	
・ 維持管理費	59,010千円（運営費）
2 取組開始までの背景、構築までの過程	
<p>○ 平成19年10月にフラワーセンター戸田を開所し、その後当施設を拡大する形で平成22年5月に蕨戸田衛生センター組合を事業主体としたリサイクルフラワーセンターが開設された。（フラワーセンター戸田は閉所。）これにより、家庭から出た生ごみの堆肥化を行い、この堆肥から育てた年間11万鉢の花苗生産を週当たり延べ140名の知的・精神障がい者や高齢者が担い、環境に負荷をかけない循環型社会の形成を促進している。</p>	
	
リサイクルフラワーセンター管理棟	温室の花苗

生ごみリサイクルに係る各種業務の実施区分

戸 田 市	蕨 市	蕨戸田衛生センター組合
生ごみバケツと花苗交換事業		施設の管理・運営
堆肥の製造		
野菜の低農薬栽培		
その他堆肥の有効利用		

*蕨市の花苗交換は毎月8鉢です。
お問い合わせ先：蕨市安全安心推進課

3 取組の特徴、成果

- 花苗交換システムについて
 - ・ リサイクルフラワーセンターにて、市民の方を対象に容量19ℓの生ごみバケツを貸し出しており、その中に家庭から出た生ごみを溜めてリサイクルフラワーセンターへ持ち込むことにより、花苗24鉢と交換している。
 - ・ 花苗交換の月については3か月に1度としており、その他の月は原則として生ごみを溜めたバケツの回収をNPOに依頼するか、若しくは引き続きリサイクルフラワーセンターへ持ち込むか、どちらかを選択することになっている。
- 堆肥の更なる活用について

生成された生ごみ堆肥「戸田の力」を姉妹都市である美里町の農地へ搬入し、米等の栽培を行っている。収穫された作物は、NPO戸田EMピープルネットや美里町との協働の下、市内の学校給食の食材として活用している。



生ごみバケツ(19ℓ)と花苗(24鉢)



生ごみからつくられた堆肥(熟成前)

4 今後の計画、課題

- 今後の生ごみ堆肥の生成量を勘案しながら市民が堆肥を活用できる方策を整備する。



美里町での白菜の栽培・収穫(右)



お問い合わせ先

名称：戸田市役所環境課

住所：戸田市上戸田1丁目18番1号

電話：048-441-1800

名称：蕨戸田衛生センター組合

リサイクルフラワーセンター

住所：戸田市美女木北1丁目8番地の1

電話：048-421-5573

048-421-2800 (組合代表)

<http://www.warabitoda-e-c.or.jp/citizens/flower.html>